

対象	中学校 3 学年以上
教科	保健体育科
該当 単元	中学 3 年 「健康な生活と 病気の予防」 ・個人の健康を守る 社会の取り組み
教科書	大日本図書等
掲載日	2017. 9. 19. 朝刊 知多版 14 面

認知症の症状 VRで体験 東海



VRで認知症の症状を体験する参加者＝東海市芸術劇場で

認知症の正しい知識を持ってもらう東海青年会議所主催の催し「オレンジフェスティバル」が十八日、東海市の名鉄太田川駅周辺であった。同市の知多メディアネットワークのオリジナル健康体操や、VR（仮想現

実）の技術を使った認知症体験会などがあり、多くの人でにぎわった。認知症体験会は、首都圏でサービス付き高齢者向け住宅を運営する「シルバークラウド」（千葉県浦安市）の下河原忠道代表が講師を

務めた。下河原さんは「認知症は単なる記憶障害ではない。人それぞれ症状が全然違う」と訴えた。参加者はゴーグル型のVR機器を使い、空間認知能力が低くなった人の視界を体験。思わず「怖い」と叫ぶ人もいた。（辻晃平）

問1：何を目的として「オレンジフェスティバル」は開かれたのでしょうか。

【 】ため

問2：「オレンジフェスティバル」では、VR体験の他にどんな催しが行われましたか。【 】

問3：VR機器を使った空間認知能力が低くなった人の視界体験のよさは、どんな点だと思いますか。あなたの意見を書きましょう。

発展：認知症に対して社会はどんな取り組みをするとよいか仲間と話し合います。自分： 仲間：

【活用にあたって】

この單元における学習課題として教科書には「健康を支えるために、地域ではどのような活動が行われているのでしょうか」と示されています。しかし、この單元までの学習に「認知症」は出てきません。超高齢社会を迎えて喫緊の課題として挙がってきている健康問題ですから、こうした記事を活用して考えてみてはどうでしょう。

身近に「認知症」の方をもつ生徒さんもいるかもしれませんので、扱い方に配慮は必要ですが、この記事にある VR 体験が行われる意味こそが重要なのだと考えることが正しい理解につながることを伝えたいものです。

解答例

問 1 : 認知症の正しい知識を持ってもらう

問 2 : オリジナル健康体操

問 3 : VR 使用ならではの効果や、自分の生活ではわかり得ない空間認知能力が低くなった怖さに触れて、自分の意見が書けているとよいと思います。

発展 : 厚生労働省の認知症施策「新オレンジプラン」に触れたり、認知症になる前における理解、認知症の方のご家族や、地域全体で見守っていく大切さなどが話し合われるとよいと思います。